

総括研究報告書

1. 研究開発課題名： 再生医療支援人材育成コンソーシアム構築
2. 研究開発代表者： 赤澤 智宏（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）
3. 研究開発の成果

再生医療に必須の医療倫理・安全性を熟知しつつ幹細胞の培養・加工等に従事する人材を、体系的に教育・育成するシステムは我が国で未だ整備されていない。本研究は、再生医療に用いる細胞培養加工等に携わる支援人材を育成するシステムを構築し、安全で有効な再生医療の実践と健全な技術発展に資する事を目的とした。医科歯科大は再生医療研究の進捗管理・マネージメントに実績を有す研究開発代表の赤澤、京大は再生医学研究で世界をリードする山中、阪大は再生医療を実用化に繋げる牽引力として活躍する澤が参画し、それぞれの強みを活かし、強力で独創的な体制で人材育成に取り組んでいる。対象人材としては、3大学の大学院生をそれぞれ選抜し育成した。

- ① プロジェクトの総合推進・調整は東京医科歯科大学が行った。すなわち、東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学の三大学で共通の人材育成が行えるように本事業全体の調整・連携を実施した。
- ② 前年度に引き続き、人材育成カリキュラムの策定、e-learning教材の開発を継続した。講師陣としてはオールジャパン体制の協力で実施した（東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学）。
- ③ 本年度新規に三大学で合計9名の人材を育成した。各大学で選抜した大学院生に対し、講義による座学とOJTを併用して教育を実施した（東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学）。
- ④ 東京と関西で各一回の講習会の開催（東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学）。
- ⑤ 幹細胞の培養・加工等に従事する人材として、(i)どのような人材が必要とされているか？ (ii)どのような技術が必要か？（スキル標準、求められる共通技術項目、尺度化）の策定が必要である。そのために、全国の主要な医療機関、研究機関のCPC技術者からアンケート調査を実施、その結果を集計し解析している（東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学）。
- ⑥ 広報活動および海外での人材育成状況を調査。

4. その他